

## 入学式 式辞

ようやく春が訪れ、生命の息吹が感じられる季節となってまいりました。

本日、ここに令和三年度入学式を挙行できますことは、この上ない喜びであります。

入学生のみなさん。ご入学、おめでとうございます。

全教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。そして、これまでみなさんを支え成長を見守ってこられたご家族のみなさまにも、衷心よりお慶びを申し上げます。

ただいま、大学院 11 人、大学 392 人、短期大学部 136 人、計 539 人の入学を許可いたしました。みなさんは、今から、兵庫大学・兵庫大学短期大学部の学生です。今日という日は、自らの進路をたくましく切り拓くための、成長の第一歩を刻んだ日でもあります。皆さんが兵庫大学・兵庫大学短期大学部で実り豊かな学生生活を築かれることを期待しています。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、これまでの私たちの当たり前があたり前でないことに気づかされた一年となりました。本学においても昨春の緊急事態宣言をきっかけに、大学構内への入構制限を行い、オンラインによる授業や、課外活動の制限・自粛などを余儀なくされました。

新入生の皆さんも、不安と期待を抱えながら、本日を迎えられたことと思います。私たちは、このような状況の中にあって、皆さんを本日、新入生としてお迎えできることをとても嬉しく思っています。

本学のことを少しご紹介させていただきます。

大学は、地元からの強い要請を受け、平成七年に設置されました。その間、時代のニーズに対応し新たな学部を設置するなど、社会に求められる人材の養成に努めてまいりました。

短期大学は、幼児教育を担う教員養成を行うために、昭和二十九年に設置された幼稚園教員養成所が前身となっています。昭和二十九年というと、第二次世界大戦が終わり、混乱した社会もようやく落ち着きを取り戻し始めた、そのような時期です。「人を育てる」という一貫した思いは、現在も受け継がれ、保育科におきましては、六十六年の伝統を持っています。

現在は、大学院二研究科、大学四学部、短期大学は二学科からなる総合大学として、発展を遂げています。その間、約三万五千人もが本学を巣立って社会の第一線で活躍しています。

このような伝統の中で、本学が大切にしているのが、建学の精神です。

建学の精神とは、大学を設立する際、どのような目的で大学を創るのか、そして、どのような学校にしたいのかという思いを明示したものです。

本学の建学の精神は、聖徳太子の「十七条憲法」第一条の「和を以て貴しと為す」に示された「和」です。自分の心を大切にしながら、他者の心も大切にする、他者の思いを受け入れることを説いています。一言で表現すれば、「互いを尊び互いを活かしあう」ということです。皆さんには、心の優しい、人の心の痛みに寄り添える、そして優しさの中にも芯を持った人、強さだけではなくしなやかさを備えた人に育ってほしい、と願っています。

今日、新しい学生生活がスタートします。勉強はもちろん、クラブ活動やボランティア活動などにも積極的に参加し、仲間と共に努力し、支えあい、分かち合う経験をたくさんしていただきたいと思います。学生生活は楽しいこと、苦しいこと、様々なことがあるでしょう。それらは全て、皆さんの人生の根っことなり、やがて大きな大輪の花になっていくものと信じています。

皆さんが学生生活を送られる間にも、社会はめまぐるしく変化していきます。世の中の動きを敏感に感じ取り、色々な事柄にチャレンジし、大きく成長してください。みなさんが、こころ豊かな、充実した学生生活を送られることを念じまして、式辞といたします。

令和三年四月三日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部  
学長 河野 真